



# 地域密着の人気ローカルスーパー／

## 有限会社 マルツ スーパーマーケット

所在地 設楽町田口字上原2-30(田口店) TEL 0536-62-0311

### 設楽町唯一の スーパーマーケット

設楽町でスーパーを2店舗経営しています。設楽町役場の近くにあるマルツ田口店と、津具地区にある津具店があり、地域に根ざしたスーパーとして、地元の人たちに愛されています。両店を切り盛りするのは、田口店店長の近藤友樹さん。近藤店長の曾祖父が始めたマルツを父の代から受け継ぎ、持ち前の発想力と行動力で、店はもちろん、地域を元気にするために日々奮闘しています。



名古屋の大学を卒業後、大手スーパーに就職した近藤店長。いつかはふるさと設楽町に戻り、店を継ぎたいという気持ちがありました。しかし、人口が減り続けているなかで商売をすることの厳しさを感じていました。マルツの社長をつとめているお父さんは、息子が店を継ぐことに反対だったそうです。しかし、町内にあるスーパーの同業者が次々と閉店して行くなか、危機感を感じて社長から戻って来てほしいと頼まれた近藤店長。地域の人たちが買い物をする場所を守るために、ふるさとに戻ることを決断しました。



田口店店長 近藤 友樹さん

### ゆた バラエティ豊かで 楽しい品揃え

大型スーパーには広さや量では及びませんが、店内には魅力的な商品が所狭しと並べられています。地元で採れた新鮮な野菜をはじめ、山間部の店とは思えない新鮮な魚や刺身、思わず手が伸びてしまう美味しい惣菜、ボリューム満点の弁当など、買い物がごがすいいっぱいになってしまいそうです。

近藤店長が商品開発を行ったマルツオリジナル商品「田口塩鶏」をはじめ、設楽町の豚や鶏、羊などの味付け肉の各種商品が揃うのも特徴です。解凍してそのまま焼けば食べられるので、キャンプ飯として購入する人も多いそうです。



オリジナル  
ティー  
Tシャツも販売



その他、近藤店長がこだわって選んだ全国各地の商品や、仲間と作っているオリジナルTシャツとグッズも販売。小さなスーパーとは思えないほどバラエティに富んだ内容で、訪れる人を飽きさせません。お客様に喜んでもらいたいという、近藤店長やスタッフみなさんの想いが店内にはあふれています。

### 設楽町に なくではないお店です

こんな商品が欲しいと店長に言うと、仕入れてくれるんです。とっても親切で温かなお店です。あと、お刺身がとても美味しいのですね。

常連客 原田かつ子さん



話題の人気商品

## 「田口塩鶏」

設楽町の人に昔から親しまれていた、「焼肉まるきん」や「栄屋」の味付け肉の商品にヒントを得て、近藤店長が開発したオリジナル商品。設楽町で育った鶏肉にこだわり、独自製法の「塩だれ」に漬け込みました。2021年の販売以来、テレビや雑誌に取り上げられた効果もあって、一躍人気商品に。地元の人々もちろん、わざわざ遠くから田口塩鶏を買おうに来る人も増えています。



田口店スタッフ  
金田 真弓さん



大手スーパーにも無いような、個性的な商品がある面白いお店です。私はイラストを描くのが好きで、店内ポップなど自由に作らせてもらっています。働きやすい環境で楽しく仕事をしています。



田口店スタッフ  
村松 有希さん

スタッフもお客様もとってもフレンドリーで、アットホームなお店です。近藤店長のことは、小さな頃から知っていますが、上司として頼りがいがあり、仕事に関しては学ぶことが多いです。

## 「思い出」を作る場所を提供したい

マルツでは、キッチンカーの販売イベントを毎月企画しています。たこ焼き、クレープ、焼きとり、カレー、ハンバーガー、ピザなど、多様なキッチンカーがやって来ます。しかし、最初は、「設楽町」と場所を伝えると断られ、出店者を集めるのに苦労したそうです。しかも、店の売上が特段アップするわけでもありません。 「地元の商店がどんどん無くなり、近くの田口高校の生徒たちは、友だちと学校帰りにクレープを食べたり、たこ焼きを買って分け合ったりするような思い出を作る機会があります。自分が体験した学生の頃のかけがえのない思い出を、今の子どもたちにも提供したい。それがイベントを続ける理由です」と近藤店長。商品をただ売るのではなく、その先にある、お金では買えない価値を、近藤店長はまちの人たちに提供しています。



津具店でもキッチンカーイベントを実施

ユニークなイベントを企画して地元を盛り上げています。



新しいスタイルの交流  
型野球イベント

むかだがしゃ  
昔駄菓子屋だった場所を  
かつよみ  
活用したイベントも企画

## メッセージ MESSAGE

### 田舎だからこそ、何でもできる!

田口塩鶏の開発やオリジナルTシャツの販売、イベント企画など、新しいことにチャレンジする理由は、若い人たちに、田舎だから何もできないのではなく、自分たちで作ればいいということを伝えたいからです。田舎だからこそ「何でもできるんだ」と思って、色々なことにチャレンジしてください。

